

令和2年 第19回

川西市教育委員会（定例会）議事録

川 西 市 教 育 委 員 会

会議日程・付議事件	1
出席者	2
説明のため出席を求めた者	3
議事録作成者	3
会議の顛末（速記録）	4 ~ 15

会議日程・付議事件

会議日時 令和2年12月17日(木) 午後2時00分

場 所 川西市役所 4階 庁議室

日程 番号	議案 番号	付 議 事 件	備 考
1		議事録署名委員の選任	
2		前回議事録の承認	
3		事務状況報告	

出席者

教 育 長 石 田 剛

委 員 服 部 保
(教育長職務代理者)

委 員 坂 本 かおり

委 員 治 部 陽 介

委 員 佐々木 歌 織

説明のため出席を求めた者

教 育 推 進 部 長	大 西	ゆかり
こ ども 未 来 部 長	中 西	哲
教 育 推 進 部 副 部 長	岩 脇	茂 樹
教育推進部副部長（学校教育担当）	山 戸	正 啓
教育推進部参事（社会教育課担当）	釜 本	雅 之
こ ども 未 来 部 副 部 長	岡 本	敬 子
こども未来部参事（幼児教育保育課担当）	喜多川	昌 之
教 育 総 務 課 長	岸 本	典 子

議事録作成者

教 育 総 務 課 課 長 補 佐	福 美	江津子
教 育 総 務 課 主 事	荻 野	裕 也

[開会 午後2時00分]

石田教育長 それでは、只今より、令和2年第19回川西市教育委員会(定例会)を開会いたします。

石田教育長 「本日の出席者」をご報告いたします。本日は、全員出席でございます。なお、「事務局職員の出欠」につきましては、事務局から報告をお願いいたします。

教育総務課長
(岸本) 本日の「事務局職員の出欠」について、ご報告申し上げます。
本日は、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止策として3密を避けるため、議題に関係する職員のみが出席しております。どうぞよろしくお願いいたします。

石田教育長 次に、本日の「議事日程」につきましては、配付しております議事日程表のとおりであります。

石田教育長 これより日程に入ります。日程第1「議事録署名委員の選任」を行います。教育長において、服部委員、坂本委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

石田教育長 では次に、日程第2「前回議事録の承認」でございますが、事務局において調製し、第17回定例会及び第18回臨時会の議事録の写しをお手元に配付しております。事務局から説明をお願いいたします。

教育総務課長
(岸本) それではまず、第17回定例会の議事録につきまして、ご説明申し上げます。1ページに会議日程・付議事件、2ページに出席者を、3ページに説明のため出席を求めた者、4ページに議案等の審議結果を、議事録につきましては5ページからございまして、会議次第に基づきましてご審議いただきました経過等につきまして、調製させていただいております。

また、第18回臨時会につきましても同様に調製させていただいておりますが、非公開案件であるため、詳細な審議経過につきましては非公開とさせていただきます。

最後に署名委員の署名ということで、第17回の署名委員の署名については治部委員、佐々木委員に、臨時会第18回については佐々木委員、服部委員にご署名をお願いしております。

以上でございます。

石田教育長 説明は終わりました。只今の説明について、質疑はございませんか。よろしいですか。

石田教育長 それでは、お諮りいたします。第17回定例会の議事録及び第18回臨時会の議事録につきまして、これを承認することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

石田教育長 ご異議なしと認めます。よって、議事録につきましては、承認されました。

石田教育長 では次に、日程第3「事務状況報告」であります。事務局から報告をお願いします。

教育推進部長 (大西) それでは、教育推進部から、「12月市議会一般質問」についてご説明いたします。

12月市議会の一般質問が12月3日、4日の2日間にわたって行われ、12人の議員の皆さんからご質問がございました。そのうち、教育委員会に関係する質問は、6人の議員から出されました。教育推進部関連では、6名の議員から主に12項目が挙げられまして、1点目が「PTAのあり方について」、2点目が「市史編纂について」、3点目が「川西市立小中学校における北朝鮮拉致問題に関する教育の実施の有無と実施の内容、教員への研修状況について」、4点目が「小中学校での教育現場の現状と課題について」、5点目が「市立学校教職員の資質向上について」、6点目が「教育における家庭の負担感をなくすことについて」、7点目が「学校や家庭に未来を連れてきたGIGAスクール構想の前倒し実施について」、8点目が「コロナ対策2事業について」、9点目が「中学校で行われている「無言清掃」について」、10点目が「コロナ禍、この間の子どもの心理状態を受け止めていくことについて」、11点目が「不登校児童・生徒の実態把握と地域ごとの「学びの場 - 居場所」を設けることについて」、ご質問をいただきました。

こども未来部関連では、2名の議員から主に2項目ございまして、1点目が「公立幼稚園入園児減少に伴う対応について」、2点目が「今年度の成人式のあり方について」、ご質問がございました。いろいろな視点からご質問、ご提案をいただき、今後検討を重ねてまいりたいと考えます。

報告は以上でございます。

こども未来部長
(中西)

座って説明させていただきます。

それでは、2点目の「子育て世帯を対象とした電子プレミアム付商品券の進捗状況につきまして」、ご報告いたします。

市が実施する電子プレミアム付商品券事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ市内の消費喚起、電子決済の推進を主な目的としておりますが、その仕組みを活用した子育て世帯を対象とするプレミアム付商品券では、一般分よりもさらにプレミアム率を高くすることで、コロナ禍で学校園所の休業等で影響を受けたり、経済的負担が増加している子育て世帯への支援施策の一環として実施するものでございます。一般分は1万円で1万5,000円分の商品券を購入できるプレミアム率50%でございますが、子育て世帯分につきましては、7,500円で1万5,000円分の商品券を購入できるプレミアム率100%となっております。

対象となる子ども1人につき一口の購入が可能で、LINEを通しての購入に必要なIDとパスワードを記載した案内はがきを11月20日に対象者2万5,621人へ郵送いたしました。12月14日現在、6,673件、約26%が購入手続をされています。

また、参加店舗は飲食店やコンビニなど220店舗で、現在も随時受付しているところでございます。利用可能な期間は令和3年1月18日から3月15日までとなっており、購入世帯や参加店舗が増えるよう、今後もPRに努めてまいります。

報告は以上でございます。

教育推進部長
(大西)

続きまして、事務状況報告の3点目、「11月分の教育委員の皆様のご活動について」、ご報告いたします。

服部委員には、兵庫県みどりのヘリテージマネージャー会の依頼により、朝来市において、「最先端の里山管理」の講演を行っていただきました。講演の中では、日本一の川西市黒川の里山、日本一の川西市内のまち山、それらを活用した児童の体験学習、川西市教育委員会の学校教育と社会教育、生涯学習との連携等について解説いただきました。

また、兵庫県生きがい創造協会・兵庫県いなみ野学園の生涯学習の講座において、「兵庫県の日本一の伝統的里山と先進的里山」の講義を行い、日本一の川西市黒川の里山と日本一の川西市内のまち山(水明台・清和台・東多田ほか)のすばらしさ、それらが市民によって守られていること、

子どもたちの環境体験学習に活用されていること、天然記念物に指定されていることなども解説いただきました。

次に、兵庫県阪神北県民局の第9期北摂里山大学の第5回講義（野外）において、川西市黒川の台場クヌギ林、黒川のエドヒガン、黒川のブナ林などについて解説いただき、川西市内にすばらしい自然が保全されていること、その自然を市民が管理していること、また、その自然を子どもたちの体験学習に活用していることなどを説明されました。

また、兵庫県シニアカレッジの園芸学科の講座において、「生物多様性を守る里山保全」の講義を行い、川西市黒川の日本一の里山林、体験学習について解説いただきました。

坂本委員には、阪神7市1町教育委員会連合会研修会にご出席いただきました。また、多田中学校、牧の台みどりこども園にご訪問いただくとともに、川西南公民館における学習支援、緑台中学校におけるいじめ防止研修会「学校風土向上を目指して～学校風土向上を目的とした具体的な取り組みとは～」、中央保育所における子どもの実態把握に基づいた指導及び支援、滋賀県湖南市立岩根小学校への視察を行っていただきました。また、関西教育フォーラム2020「先生はどう働き、子どもはどう学ぶか」オンラインセミナーに参加されました。

治部委員、佐々木委員には、坂本委員と同様に、緑台中学校における研修にご出席いただきました。また、佐々木委員は、元川西市教育委員の尾市雅子さんや堀田啓子さんも出演された川西市音楽家協会の第23回定期演奏会を鑑賞されました。

石田教育長

ありがとうございました。
何かご質問ありますか。何か活動について。

服部委員

少し追加で。阪神北県民局の第9期北摂里山大学の第5回講義の中で、高橋課長とウエダさんも参加していただき、高橋課長、ウエダさんから、4年生の里山体験学習の講師が非常に少ないので、講師をぜひお願いしますというふうな依頼をされていました。非常によかったと思います。

石田教育長

そうですね。この間、坂本委員と多田東小学校に行ってきて、裏の多田東の舎羅林山のことについてかなり校長、教頭が主体的にやられて、特に西門教頭がすごい楽しい場所やと言っていましたけれども、何か大分ボランティアも進んでおられるんですか。

服部委員 あそこのボランティア団体、まだ活動して1年たっていないんです。1年たっていない活動の中で、今回、多田東小学校の3年生、4年生、5年生をそれぞれ別の日に受けて指導したということで、そういう子どもたちの指導ということではすごい熱心で。

石田教育長 そうですね。

服部委員 あと、彼らは作業力もすごくて、だから、あっという間に道ができたりして、モデルとしては非常にいい状況だと思います。今まで水明台と、それから清和台ということで、それは今までと同じように動いているんですけども、新しいこういう構造ができたということは非常に喜ばしいことだと思います。

石田教育長 今回、コミュニティーの通信にも活動が載っていましたので、大分定着しました。一回見に行かなあかなと坂本委員とは言っていたんですけども。

服部委員 それで、今日、教育長はいつ来られるんですかとかというようなメールが入っていました、その団体のグループから。僕は知らなかったので、よく分かりませんとってあれしていたんですけども。

石田教育長 では、行くように、絶対実施の場所を見て。何かすごい自然豊かないい場所で、ボランティアの方もすごいいいと言うて。教頭が理科ということもあって、特にすごい力を入れてはりましたね。

坂本委員 本当にその山で取ってきたもので学校にいっぱい飾ってはったし、図工も材料を使って作ってはったり。子どもたちが作った看板を置かせてもらっていて、これは何ですよというのを書いてあったりとかで、何かいい循環ができているなど。

石田教育長 そんな感じ。また、そしたら。

服部委員 川西の場合は水明台と清和台というすごいいい事例があるので、活動してもあまり目立たないような感じですけども、中身自体は本当にトップクラスをいって、それもたった1年でああいう構造をつくり上げたというのすごいと思います。

石田教育長

そうですね。

服部委員

教頭先生もあの中に入れていただいて、先生もメンバーに入って。

石田教育長

教員もすごく積極的に参加していると言っていましたよね。教員がそこで学んでいるというのもいい話やなと思います。

服部委員が前からご提案いただいているように、小学校区、中学校区に欲しいなということで、前言っていました一庫ダムのあれを例えば北稜小とかに使うとかというふうに考えていかなあかんかななんて思いました。

坂本委員は何か。

坂本委員

黒川の里山のことで、テレビでこの間、炭焼きを特集されているのがあって、今アニメで鬼滅の刃がはやっている関係で炭焼きがすごく注目を浴びているんですよね。川西の子たち、4年生は今年行けなかったのがあれですけども、何か実は川西にはちゃんと炭焼き、リアル炭治郎があるんだよみたいなことがあったらうれしいなと思って。

服部委員

そういう切り口があるんですね。

坂本委員

そうなんですよ。ちょっと軽いんですが、子どもたちが自分の楽しいと思っていることと自分が住んでいるところが実は共通点があるとかいうだけでも、すごく学びのスイッチが入るんじゃないかなと思ったので、アピールしてもいいかなと思ったりはしています。

あとは、学習支援のほうを見させてもらったんです、公民館の。とてもシステマティックにされていて、学生さんのバイトの方もよく教えることにたけておられるので、全部教えるというよりはしっかり近くに寄っていて、困っている、手が止まっていそうだったらそっと教えていくという形で何かいい関わりをされているなと思ったのと、最初、当初予想していた人数より少なく来られていた学年を見させてもらったので、1対1ぐらいだったんですね。追加募集をされるか、されないかという話をちょっとしたんですけども、大人がこうやって子どもに関わってもらえるということに参加した子どもは知ることができたし、保護者の方もすごく喜んでおられたので、3月まで無事に開催されるといいなと思いました。

石田教育長

ありがとうございました。

治部委員 今日、オンブズパーソンとのミーティングが、来月のほうがいいですか。

石田教育長 いいです。え、オンブズとの。

治部委員 オンブズパーソンとのミーティングが今日あったので、もしその感想と
かも言って大丈夫ですか。

石田教育長 いいです。

治部委員 じゃ、今日、この定例会の前に川西オンブズパーソンの方々とのミーテ
ィングがあったので、そこでの感想を少しだけ共有させてください。テー
マが不登校やいじめや学級崩壊などの案件に広く及んだ会議でした。そこ
でそれぞれの立場からいろんな意見が出て、その中で私感じたことなん
ですけども、やはりチーム学校もしくは多職種間連携の必要性が大切だ
と個人的には感じた会議でした。子どもたちへの心の健康教育のような予
防的観点はもちろんのこと、今現在しんどい状況にいる子どもたち、その
しんどい状況は、様々理由はあると思いますが、その子どもたちを救うた
めの手だてとしても、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー
等の多職種での連携で学校をサポートしていき、子どもたちをサポート
していくというモデルが理想的だと感じました。

あとは同時に、子どもたちの家庭環境に介入する手だてとして、保護者
さんへのサポートみたいなものをもっともっと体系化していくというのも
大切かななんて、個人的には聞いていて思いました。

以上です。

石田教育長 ありがとうございます。治部委員は初めてですか。

治部委員 はい。

石田教育長 そうですか。お三方とも初めてやね。

治部委員 そうだったんですか。

石田教育長 分かりました。
佐々木委員は何か。

佐々木委員 オンブズはあれで、1時間で短かったですけれども、そうですね、家庭環境という個別の話と学校内部での問題、学校が外にSOSを求めて、組織的にうちが何ができるかというのが、ちょっと何かごちゃっとなっていたのがもうちょっと深めて話ができたら建設的になったのかなと。1時間で終わったので、この後も続きで何か話ができたらいいなとは思って聞いていました。

石田教育長 昨年度のことを受けて、オンブズも提言を出したいと言われていたので、その内容を一回共有して話してもいいかなというのは思っています。また、協議会でさせていただこうと思います。
お二方、兵教大はどうなんですか。

佐々木委員 私、1日だけでしたけれども。

石田教育長 どんな感想でしたか。トップリーダー制みたいな、リーダーシップ編。

坂本委員 はい、そうなんです。教育長になられた方がリーダーとしてどうあるべきかという、どうあるようにすればいいかという話だったんですが、マネジメントとリーダーと違うというところが私の中では、そこが違うんかというところで驚きの2日間だったんですが、教育長になるのに、校長先生も、長になるところで研修がないままになってしまって、分からないままに進んでいくことが多いんですというのと、あと、研修自体がないのでこういうのをつくっていきますということで、頭の中はすごく整理されたんですね。それこそ学校長になられるときも、教員である自分とリーダーである自分はまた別だということをしごくずっとおっしゃっていたので、何か頭の中が整理されて、きっと皆さん、いいんじゃないかななんて思ったんです。出向いて研修してくださると言ってはりました。

石田教育長 そうですね。

坂本委員 はい。

石田教育長 そうですね。

坂本委員 呼んでくれたら。

石田教育長

そうですか。
佐々木委員、どうでしょう。

佐々木委員

多分、通常、経営学などをやれば普通にやる組織論の話だと思うんですね。それを学校に特化した形でカスタマイズされた経営の組織論の中のリーダーシップ論だったので非常に勉強になりました。やっぱり特殊な教育界で、先生方の独自の思想がある中で、リーダーシップとは何ぞやというのをきちんとかみ砕いて分かりやすく教えてくださっていたので。

あと、ワークショップ型というか、グループワークをたくさんさせられたので大変身についてと思います。教育長、しっかり監視してくれて、最後にね。

石田教育長

どういうことですか、それは。あれですか、でも、経営論みたいなものは弁護士の職種の中では経営論を学ぶ場があるんですか。

佐々木委員

はないですけれども、企業法務をやるに当たって、自力で経営者の方がどういったことをやっているかというのは、勉強はするので。普通に私も入門書を買って何冊か読んだんですけれども、出てくる資料で学者の名前とかが上がっているのは古くからある経営学の学者さんたちだったので、逆に言うと、今までこれが浸透してなかったのかというのが、それはそれでまた新鮮でしたけれども。

石田教育長

それでいうと教育だけじゃなくて、こんなことを言ってもしょうがないけれども、教育行政もだんだん上がっていくんですけれども、どんなマネジメントをしているか、どんなリーダーシップしているかというのは必要に応じて研修はしているんですけれども、その必要性の度合いというのは個人によって違う。すごくそれを欲している人もおれば、もう分かっているわという人もいて。私は一回整理する意味で、そういうリーダーシップとマネジメントと改めて言われたら何のことやということになるから、僕は非常に面白い、ブラッシュアップされる。新鮮な何かを聞くというよりも、自分の中にあるものをもう一回明らかにできるという意味で面白いかなというふうに思う。またぜひここにおられる方は。

坂本委員

講義スタイルは絶対あれがいいと思います。レフネックでも何でもですけど、一方的じゃなく。

佐々木委員 そう、基本立って作業している感じでしたね。

石田教育長 そうですね。だから、やっぱりああいう学びに変わっていかないと、学校の授業もそうですけれども、大人の学びもリカレント教育もああいう形でないと、ちょっとイメージが皆、講義形式というのが多いかなと思いますので。

坂本委員 もう一つ聞いてもいいですか。

石田教育長 いいです。

坂本委員 プレミアム付商品券なんですけど、LINEで登録させていただく形なんですけれども、例えばLINEを登録していないご家庭の人から問合せが来たりとかあったんですか。

教育推進部参事
(釜本) おっしゃるとおり、スマホを持っているけれどもLINEやっていない、そもそもスマホを持っていないという人からの問合せ等ございました。今回、産業振興課のほうがプレミアム商品券を出して、子育てのほうがそれに乗るといような形でやったんですけれども、メインがお店のいわゆるキャッシュレス、それをこれからのコロナの時代も含めて、お金をやり取りせずに行きましょうというのを市内に広げるとというのが第一目的であるということと、それと買う消費者側もお金を触らずに行きましょうというところを強調している今回の事業ですということでご説明させていただいて、特に強烈的な批判は今のところございません。

坂本委員 なるほど、分かりました。子育て世帯を応援して下さるのかなと思いきやの、LINEがなかったらできへんのかなというのでちょっと困惑される方がいらっしゃるかなと思ったんですが、そういう趣旨があるということだったら。

石田教育長 初めての試みというか、そうなので、こちら辺についての声についてはやっぱりきちっと丁寧に広げていかんとあかんというのは担当のほうにすごく思っているところです。いろいろ試行錯誤しながらの新しい試みだったので、いろんなご意見があるやろうなとは予想していました。

坂本委員 26%というのはまたこれからどんどん増えそうな感じですか。

教育推進部参事
(釜本) 今ハシリで来ているんですけども、ちょっとやっぱり想定しているよりはまだ低いかなという実感はあります。そのため、さらにPR等含めて、できるだけ数を増やすというような形で取り組んでいきたいと考えております。

石田教育長 思ったより伸びてないんですよ。だから、そこら辺にどういう理由があるのかは担当のほうにも、かなり情報収集して、店を広げるとかもっとやりやすい、アナウンスするとか、そういうことを考えられているみたいですよ。よろしいですか。

坂本委員 はい。

石田教育長 僕のほうからちょっと連絡はいつていると思うんですけども、実はコロナの感染が市内でかなり増えているというのが実情です。基本的にはご家族からの感染によってしていますので、学校閉鎖で今クラスターが起きているということは事実上はないんですけども、ただ、濃厚接触者じゃないけれども、念のためにPCR検査を受けるといのがあるんですよ。その場合、PCR検査を家族が受けた段階で学校を自主待機していただいて、自宅待機していただきたいというような旨の文書を学校教育とか、僕のメッセージで一応出しているんですね。そうしないと、学校に来て陽性やということになると、その瞬間、学校全体にも影響があるので、一応出席停止という扱いで自宅待機していただきたいというのを出しています。もちろんそれに協力していただいている方もおられる、大部分なんですけれども、ちょっとやっぱりその趣旨に納得できないと言われる方もおられて、その辺はでも、この時期やむないかなというふうに思っています。もう少し感染のあれが収まれば、また通常どおり濃厚接触者が出た場合のみにしようかと思っているんですけども、今はPCR検査を受けた段階でということですよ。まだ陽性が陰性が分らんけれども、受けた段階で自宅で待機してくれということを出していますので。

それともう一個は、基本的にそうやって出た場合は行動履歴を問われるんですけども、保健所、健康福祉事務所もその行動履歴から誰を濃厚接触者にして、誰をPCR検査するかというのを判断するのに時間がかかっています。基本的には時間がかかって、例えば1日かかるとしたら、その1日は学校休業にしていると、臨時休業に。これはいろんな考え方があっ

て、その間はまだ判断できないんじゃないかということもあるんですが、今現時点では不安のほうが先に立つやろうということで、指示があるまでは休業すると。その後、健康福祉事務所の指示を各家庭に下しているという形になっていますので、ご承知おきください。それで市内の小・中学校でちょっと臨時休業が出ているということは事実です。当面はこのやり方でやりたいと思いますのでご了承いただきたいと思います。

それでは、よろしいですか。

(「はい」の声)

石田教育長 それでは、事務状況報告については以上といたします。

石田教育長 以上で、本日の議事は全て終わりました。

石田教育長 次回の定例教育委員会は、1月21日木曜日午後2時から庁議室において開会の予定です。

石田教育長 これをもちまして、第19回川西市教育委員会(定例会)を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

[閉会 午後2時29分]

以上会議の事項を記録し、相違ないことを認めましたので、ここに署名いたします。

令和3年1月21日

署名委員 服 部 保

坂 本 かおり